

写真審査委員が応援メッセージ

かゝ構図はどうなるか。

7月より、写真甲子園実行委員会のYouTubeチャンネルで審査委員の先生方からのメッセージを公開しています。

「日常生活を、目線を変えてちょっと楽しんでみる」「そんなヒントを得られるコトバが散りばめられていて、写真甲子園を目指す高校生だけでなく、ぜひみなさんに見ていただきたい内容となっています。ご興味の方はぜひこちらからご覧ください。」



【第1弾】中西敏貴氏

『9割狙って、1割の偶然を楽しむ』



撮影や組写真、つくりなどのさまざまな「技術」を、具体的に解説。何を意識して撮るか？光の向きが違うとどうなるの

【第2弾】村上悠太氏

『自分の思いが伝わるのが良い写真』



んは人生の糧になるはず。

写真は「自分を表現し、人とコミュニケーションをとるためのツール」。表現、発表して得られるいろいろなリアクション

【第3弾】鶴巻育子氏×公文健太郎氏

『被写体をよく見ているかがポイント』



▲鶴巻氏



▲公文氏

昨年の写真甲子園や、お二人が影響を受けた写真集をみながらの対談。

動画で配信、アプリ「ロカムインミ」

6月20日、『ヌプリコロカムインミ』

の動画配信が行われました（アプリは「山」、カムインミは「神への祈り」を意味するアイヌ語）。昨今の状況を受け、例年のように盛大な『山の祭り』は開催

できませんでしたが、山々の神々に祈りを捧げる儀式は無観客で実施。通常は辺りが薄暗くなる頃に行われていたため、いつもとはまた違った幻想的な空気に。動画ではナレーションや川

「ロコ」ながらキャンデイルナイト

6月19日〜20日、『HIGASHIKAWA 281人のキャンデイルナイト』を開催しました。「人が集まらなくても楽しめるイベントを」とドットレト



▲雨でぬれた地面にも光が反射

ミシーが発案し、町内400世帯以上にキャンデイルを無料配布。19日はフローティングキャンドルやlampo（ランプ）さんの蜜蝋ティールایتなどを灯し、思い思いにゆったり過ごしていただけの様子。あいにくの天気でしたが、参加店64軒のみならず町内のあちこちで温かな火がゆらめく神秘的な光景を見ようと、



▲アグリゲーション(右の5人)と

村カ子トアイヌ記念館の川村久恵さんによる解説もあるため、それぞれの踊りや儀式の意味をより深く知ることができるとのポイントです。

動画は現在、ひがしかわ観光協会のフェイスブックで公開中。



町じゅうを歩いた方もちらほら。SNSには想定以上の約400点もの写真が投稿され、みなさんの「このイベントを楽しもう」という想いが伝わってきました。20日は寄せられた写真を映しながら、ドットレトミシーが「キャンデイルナイトコンサート」をWEBで生配信。東川アンサンブルクラブ・アグリゲーションをゲストに迎えての『見上げてごらん夜の星を』は、音・歌・映像の相乗効果で、まるで星を眺めるかのようにみなさんが「同じ日の同じ時間、それぞれの場所で」キャンデイルを見つめる姿が思い浮かんできました。「ろうそくに火を灯すみなさんが主役」のこの映像は、ドットレトミシーYouTubeチャンネルで公開中です。